

尾道近代たてもマップ
近代化遺産探訪ガイド

発行
尾道ユネスコ協会
〒722-8501
広島県尾道市久保一丁目 15-1
Tel. (0848) 25-7367



Sketches & Words : 渡邊義孝 (Yoshitaka Watanabe)
Design : 小野環 (Tamaki Ono) + 竹内かな (Kana Takeuchi)
協力 : 尾道大学・NPO法人尾道空き家再生プロジェクト
平成 23(2011)年 1月発行

Copyright © 2011 Onomichi UNESCO Association All Right Reserved

11 おおはまさきとうだい かんれん しせつ
大浜埼灯台の関連施設

いのみしまはま町 せつめい しょう ねん
因島大浜町/明治43(1910)年



かわ のような急流で知られる瀬戸内海、布刈瀬戸。潮の干満に加えて潮流を調べて船に知らせる大切な施設だった石造灯台。(明治27[1894]年)無人になったが今も現役。手前の3つの白い塔は「船舶通航潮流信号所【土木遺産認定】」の建物で、船の交通状況を可動羽により○△□で表示した。他に、東流・西流を腕木の回転で告知知らせた「潮流信号機」も保存されている。

12 しらたきさんそう きゅう てい
白滝山荘 (旧ファーナム邸) 登録

いのみしまはま町 せつめい しょう ねん
因島重井町1233/昭和6(1931)年



アメリカ人の建築家ヴォーリスが宣教師のために設計した山の中腹の邸宅。赤く塗られた柱や筋交いが外から見えるハーフティンバーというデザインが特徴。オリジナルの木製上げ下げ窓が残っているというのもたいへん貴重。現在はペンションとして活用。

13 なかの きゅうか ぐん
中野旧家群

せと だちゅうなかの えど じだいごき たいしやうき
瀬戸町中野/江戸時代後期～大正期



黒い杉板の腰壁と白い漆喰のコントラストが美しいこの集落は、生口島北部の中野という穏やかな田園地帯に建っている。幕末から明治・大正期に、製塩・海運業そして果樹の問屋として栄えた家々が、長屋門(両端に部屋をそなえた屋根付きの門)とともに今も残る。純和風の景観は、江戸時代にタイムスリップしたかのよう。

07 ひさやまだ ちよすい ち えんてい
久山田貯水池堰堤

ひさやま ちよすい ち えんてい
久山田町/大正14(1925)年 登録

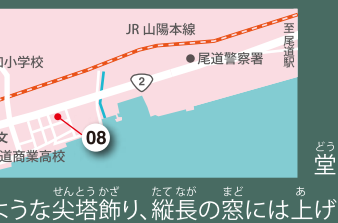

尾道大学キャンパスのそばにある水源地。尾道近代水道の父、山口玄洞翁の寄付も受けて作られたこの堰堤(ダムのごと。長さ75m、高さ22m、コンクリート造)のおかげで、水不足に悩む尾道の人びとに清潔な水が供給されるようになった。

08 じむ き かぶしきがいしゃ
イシネ事務機株式会社 登録

こはまちょう せつめい しょう ねん
古浜町6-17/明治33(1900)年

堂々とした寄棟の瓦屋根にはツノのような尖塔飾り、縦長の窓には上げ下げ窓がまだ残っている。そして南京下見板とくれば立派な擬洋風建築。実はこの建物は110年前の警署! 当時、本通り商店街(土堂)に建てられたものを解体、約2.5km離れた古浜町に建て直して事務所として活用している。ちなみに本当の「建物の顔」は、海側を向いている。

10 09 ちゅうごくでんりょくさん ば へん でん しょ
中国電力山波変電所 登録

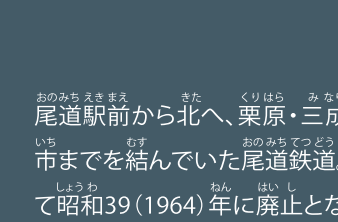

さんばちょう たいしやう ねん
山波町/大正12(1923)年

ノコギリ屋根は、広い工場の内部に、北側からの安定した光を取り入れるために考え出されたデザイン。レンガの壁がそのまま残っているのは特に貴重だ。第2次大戦中、捕虜となったイギリス兵ら216名がここに収容され、終戦(昭和20[1945]年)までに23名が亡くなった。彼らを悼むモニュメントが道路際に取り付けられている。




04 きゅうおのみちてつどう ごう
旧尾道鉄道 4号トンネル

おのみち えきまへ きた くりはら みなり いしころ へ かつせいちやう
尾道駅前から北へ、栗原・三成・石畦を経て御調町の市までを結んでいた尾道鉄道。バス路線が便利になって昭和39(1964)年に廃止となり、線路はほとんどなくなったが、トンネルはいくつか残っている。この4号トンネルは大正15(1926)年に開通したもの。鉄道施設は「機能だけ」と思いがちだが、上部には三角のレンガの飾りがあり、おしゃれにも気をつけているのがわかる。レンガは珍しいフランス積み。地域の交通手段として愛された鉄道の跡をたどってみたい。

05 きゅうはらだ ゆうびんきょく
旧原田郵便局

はらだちょう かしやまだ しょうわ ねんごう
原田町鶴山田3696-2/昭和6(1931)年頃

小柄なピンクのボディに赤い木枠のアクセント。窓はもちろん縦長窓。瓦屋根の正面にちよんごとと破風が付いている。近代化システムの代表だった郵便局は、その多くが洋館風に建てられた。これもその典型。平成11(1999)年まで働いた後、現在はガラス工房として活用されている。




06 ふじい かわごう じんかん
藤井川公民館 (旧美ノ郷村役場)

み の ぐらう ほんごう たいしやう しょうわ ねんごう
美ノ郷町本郷2274-2/大正～昭和初期

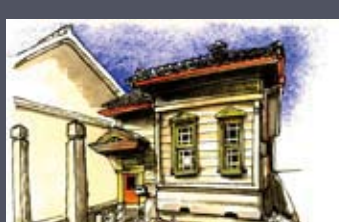
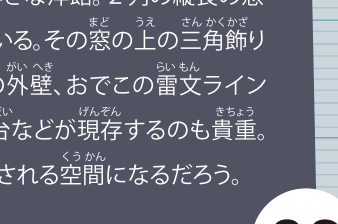
東側の部分がオリジナルの外観。南京下見板と縦長の窓、浅い軒の出といった洋館デザインが、当時の公共建築の流行を物語る。内部も漆喰の壁が残っている。




01 きゅうむらい い いん
旧村井医院

むつせうむらい たいしやう しょうわ ねんごう
御調町市/大正～昭和初期


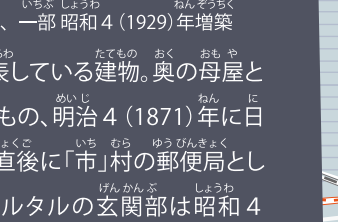
空き家から再生されつつある小さな洋館。2列の縦長の窓は、いまも上げ下げ窓が残っている。その窓の上の三角飾り(ペディメント)や擬石仕上げの外壁、おでこの雷文ラインなど近代建築の要素がたっぷり。開業当時のレントゲン機器や手術台などが現存するのも貴重。地元のアーティストが自力で改装中。今後、アートの発信地としても愛される空間になるだろう。

02 きゅういち むら ゆうびん きょく
旧市村郵便局

むつせうむらい せつめい しょう ねんごう
御調町市/母屋=江戸後期、一部 昭和4(1929)年増築

歴史の移り変わりをみごとに表している建物。奥の母屋と右端の土蔵は160年以上前のもの、明治4(1871)年に日本の近代郵政がスタートした直後に「市」の郵便局としてオープン、左の神楽風のモルタルの玄関部は昭和4(1929)年に建てたという。土蔵の手前の店舗部は上部の外壁がそのまま看板のように立ち上がる「看板建築」になっている。どこをとっても「その時代らしさ」が詰まっている。

03 みつぎれき し じんそく しりょうかん
市重文 御調歴史民俗資料館 (旧河内村役場)

むつせうむらう せつめい しょう たいしやう ねんごう
御調町丸河南86-1/明治期

洋風なのか、和風なのか判断に悩む。玄関の入母屋の屋根は和の要素。でも南京下見板や縦長窓などは洋館のデザイン。そこが明治時代の人たちに、ちょっと進歩的な雰囲気を感じさせたのだろう。2階には村議会議場があり、昭和30(1955)年まで村役場として使われた。



